

臨床研修機能評価とは？—医療人教育に御協力をお願いいたします—

東邦大学医療センター佐倉病院 副院長（教育担当） 龍野 一郎

4月に入り新年度を迎え、佐倉病院でも初期研修医をはじめとして多くの新入職員を迎えて院内は慌ただしく動いています。

医師臨床研修制度では医学部を卒業した医師は2年以上の総合的な臨床研修を受けなければならないと規定されておりますが、全国どの臨床研修病院に応募しても良く、本人と病院の受け入れ希望が一致した病院で臨床研修を始めることとなります。この研修医マッチング(組み合わせ決定)は医師臨床研修マッチング協議会のコンピュータを用いて厳正に決定されています。

近年佐倉病院で行われている看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・管理栄養士など多職種と一体化した総合臨床研修に対する評価が高まり、総合型研修医19名の募集枠のすべてが4年連続して埋まっており、佐倉病院の提供する高い専門医療だけでなく、暖かい垣根の低い職種間を超えた職場環境も評価され、応募の決め手になっているようです。

さて、このような初期研修が適正かつ的確に実施されているかを第三者機関であるNPO法人卒後臨床研修評価機構(略称JCEP)が機能評価する試みが行われており、佐倉病院でも2019年度に受審する方向で準備を進めています。JCEPによる機能評価は書面審査と訪問審査に分かれ、事前に提出した書類に基づき、サーベイヤーが実際に病院を訪れ、病院の教育責任者や研修医だけでなく、病院関係者に幅広くインタビューをするなど厳しい審査が行われます。佐倉病院ではこのような機能評価を通して引き続き、初期研修医プログラムを改善し、教育の質を高めることを目指しています。

佐倉病院では研修医教育以外にも佐倉病院では医学生、看護学生、薬学生など多くの医療人教育に携わっており、皆様の外来診療・入院診療の現場で学ばせていただいています。是非患者さんの立場から医療人教育に参画いただき、暖かい目で、時には厳しくご指導をいただければと思います。

外来受診のご案内

- 開扉時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜/創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

■当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院・大学付属病院です。臨床研修医および医学生・薬学生・看護学生のほか、医療関係各種学生・研修生の教育実習・研修が行なわれております。実習・研修は指導医・指導薬剤師・指導看護師や各職種指導者の監督のもとで行なわれますので、ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

寒さも少しずつ和らぎ、暖かな春の陽気となってまいりました。4月は新たなスタートの時期でもあります。私もこのSAKURA dayoriの編集担当になってからちょうど1年にもなりました。まだわからないことばかりで毎日勉強中です。今年も新しいことにチャレンジしていきたいと考えております。(総務課 青柳)



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2019年4月【年4回(1・4・7・10月)発行】
URL：http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp



SAKURAdayori

東邦大学医療センター 佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

佐倉病院の 新たな取り組みについて

副院長(管理・医療連携・ダイバーシティ担当) 吉田 友英



4月から始まる2019年度は、平成に変わる新しい年号がはじまる正に節目の年度であり、東邦大学医療センター佐倉病院も新時代に即した変革に向け鋭意準備をすすめています。

人生100年時代、地域包括ケアシステムという言葉に耳が慣れて誰もが当たり前にする時代となってきました。「地域包括ケアシステム」という概念は、1980年代に広島県御調町における取り組みによって生まれたそうです。地域包括ケアシステムとは、高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように、地域内でサポートし合うシステムのことです。

当院は、高度急性期病院であるとともに、地域で完結する循環型医療の中核病院としての機能も発揮していかなければなりません。このような地域包括ケアという循環をスムーズかつ有効に行うにはかかりつけ医を中心とした医療、そして介護との密な連携が欠かせません。当院はこのような役割を果たせる高度急性期病院として教職員一丸となって取り組んで参ります。

4月より当院は下記のような変革を予定しています。

- 手術予定の患者さんと入院の患者さんを対象とした透析室の増室を行います。透析ベッドは7床ですが、原則として外来透析は行いません。

● ハイケアユニット(High Care Unit : HCU)の新設を検討していきます。HCUへの入室は、全身麻酔での大手術後の患者さん、一般病棟で容態が悪化し重症な管理が必要な患者さん、救急外来から急病や重症のため緊急入院が必要な患者さんなどが対象となります。HCUで回復し、一般病棟での入院生活が可能な状態に改善した患者さんはすみやかに一般病棟へ移動することになります。

● 病院全体として医療情勢の変化に柔軟に対応できるタフで高機能・高稼働な病院(長尾院長の最近のお気に入りの言葉です)を目指すため、病床を一部削減します。そしてこれまで以上に入院前支援、退院支援の充実をはかることで入院される方の在院日数を短くし、次に入院の必要な方をスムーズに受け入れられるように有効なベッド運用をおこなってまいります。

節目となる新年度は、医療情勢の変化に柔軟に対応しながら、患者さん、ご家族から選ばれる病院を目指します。また、地域の医療機関(かかりつけ医等)とは紹介・逆紹介で密な連携をとることで、頼りになる病院を目指します。今後も高度急性期病院としての役割を果たしながら、地域から必要とされる病院として一層努力して参ります。

今後ともよろしくご協力いたします。

市民公開講座『がんと暮らし・仕事』～治療を続けながら働くこと～



産業精神保健・職場復帰支援センター 小山 文彦



小山 文彦 臨床教授

現在進められている「働き方改革」においても、がんなどの疾病の治療と仕事との両立を支援すること、「治療と仕事の両立支援」(以下、両立支援)が重要度を増しています。今回の公開講座においてもこのテーマを取り上げ、まず、私から「治療と仕事の「両立支援」をご存知ですか?」と題して、事例を交えた支援の概要についてお話ししました。これまでに、がん体験者の声を集めた静岡がんセンターや東京都保健福祉局の調査によれば、治療費等の経済的問題や仕事内容の変化、治療に伴う休暇の取り方など、罹患後の暮らしや働き方への気配りが多いとされています。これまで私が関わったがん患者さんにおいても、治療と仕事の両立のためには、医療面のみならず暮らしや心の問題へのサポートや、再就労に向けたハローワークとの連携や職場との情報交換がカギとなることが多くありました。続いて、塚本佳子看護師と落合尚子看護師から、「患者さんと共に取り組む治療と仕事の両立」として、まず、当院のがん相談支援センターについて紹介がありました。具体的に、日々どのような悩みや気配りの相談を受けているか等の実態に触れながら、患者さんとともに考え、悩みながら治療を進めている現状が紹介されました。また、横浜労災病院の藤田寛MSW

(医療ソーシャルワーカー)からは、「がん治療中の生活に役立つ社会資源や制度」として、高額療養費制度や傷病手当金の請求などの具体的な活用法についてお話しいただきました。今回の公開講座を振り返り、あらためて思うのですが、医療現場における「患者さん」は、職場では何らかの役割を担う労働者であり、その街で暮らす生活者であり、たいせつな家庭の一員でもあります。一人何役もこなしている闘病者への支援とは、医療面のみならず全人的な眼差しをもってこそ初めてかなうものだろうと実感します。



当日の様子

2019年 公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
4月13日(土) 13:00~15:00	〈災害医療〉 災害医療について	〈東邦佐倉DMAT〉 長尾 建樹 他
5月11日(土) 13:00~15:00	〈地域包括ケア〉 食と地域包括ケアでささえる高齢化社会	〈糖尿病・内分泌・代謝センター〉 龍野 一郎 他
6月22日(土) 13:00~15:00	調整中	調整中
7月13日(土) 13:00~16:00	〈地域で考えるケアと治療〉 お酒とからだの付き合い方	〈脳神経内科〉 榊原 隆次 他
8月	休会	休会

ご参加お待ちしております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。

講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。ご不明な点や講演テーマのご要望などございましたら、総務課にご連絡下さい。

赴任のあいさつと乳腺外科の紹介



乳腺外科 榊原 雅裕



榊原 雅裕 教授

みなさまはじめまして、乳腺外科の榊原雅裕です。昨年11月より東邦大学医療センター佐倉病院の乳腺外科を完全に再開しましたのでご報告します。乳腺外科の休止中、みなさまにご迷惑とご心配をおかけしました。今後はみなさまに安心してご利用いただける乳腺外科となるように努めますのでよろしくお願い致します。

まず乳腺外科についてご説明します。乳腺とは乳房の中にある母乳を作る臓器のことを言います。ただし私たちは、乳房の病気全般を扱います。また外科と名前が付きますが、手術以外の診察や内服処方といった内科的な診療も行っています。男性の方を含めて乳房に関するお悩みがありましたら、まず私たち乳腺外科にご相談下さい。

そしてもしも乳がんの診断や疑いを受けた時には、ぜひとも私たちにご相談下さい。迅速な精密検査と適切な手術と

治療で対応します。また遺伝カウンセリングや遺伝検査、入院期間を短縮させる低侵襲手術、形成外科による乳房再建など乳がんに関わる様々なご希望にお応えします。

最近では、テレビ、雑誌、ネットで乳がんに関する話題が多く報じられています。市の検診や会社のドッグを受けるといつもコメントが書かれたり、家族や職場の同僚などに乳がんの方がいて心配している方々も多いのではないのでしょうか。私たち乳腺外科で検診やドッグをお受けすることができますが、検診やドッグの要精密検査はもちろん、その他の乳がんに関する様々なご心配に対応いたしますので、一度ご相談下さい。

私は佐倉病院に来る前には、千葉市の千葉大学附属病院で乳がんの専門医として約15年間働いてきました。これからは佐倉市のみなさまはもちろん、千葉県北東部の多くの方々に、これまでとは違った新しい乳腺外科の診療をご提供させていただきます。私たち乳腺外科をぜひご利用下さい。

今後ともよろしくお願い致します。

白内障手術の原則日帰り手術化



眼科 昌原 英隆

2018年12月より東邦大学医療センター佐倉病院眼科では白内障手術を原則として日帰り手術とすることにいたしました。当院眼科では難治性網膜硝子体疾患を専門に治療しており、28年度では難治性網膜硝子体疾患に対しては744件の手術実績があり、東は茨城県から西は船橋市にわたる広い診療圏から紹介をいただき網膜剥離や眼内炎などの緊急疾患に対しては可能な限り即日対応するように努めてまいりました。さらに、難治性網膜硝子体疾患のみならず、白内障、涙道疾患、緑内障、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、斜視などの幅広い分野の眼科診療を行っており、地域中核病院としてその役割を果たしてきました。とりわけ、白内障手術では1481件(平成28年度の1年間)もの手術を行い、地域の先生方や患者さんの期待に応えるように医局員一同頑張ってきました。しかし、近年の医療環境の変革に伴い限られた医療資源を効率よく分配するという観点から、佐倉病院の限られた眼科病床をより難治性疾患に割り当てるため、また、全国的に白内障手術の日帰り手術の増加という時流に合わせて12月より原則日帰り手術化に踏み切ったわけですが、当院では以前より涙道内視鏡を使用した涙道手術では日帰り手術で行っており、そのノウハウの十分な蓄積を生かして現在のところスムーズに移行できていると思っております。もちろん、独居、遠方からの通院、全身

麻酔が必要な全身疾患の既往がある患者さんは個別に入院にて対応させていただいておりますので、担当医師にご相談ください。日帰り手術はいつもの生活リズムを保ちやすく、手術後も暮らし慣れた環境でゆっくり過ごすことができます。入院による拘束がないため家を留守にする心配、仕事上の不都合等もありません。日帰り手術のため入院費用がかからないのも利点です。何卒近隣の先生方や患者さんの御理解をいただければと思います。



白内障日帰り手術室エントランス



手術風景